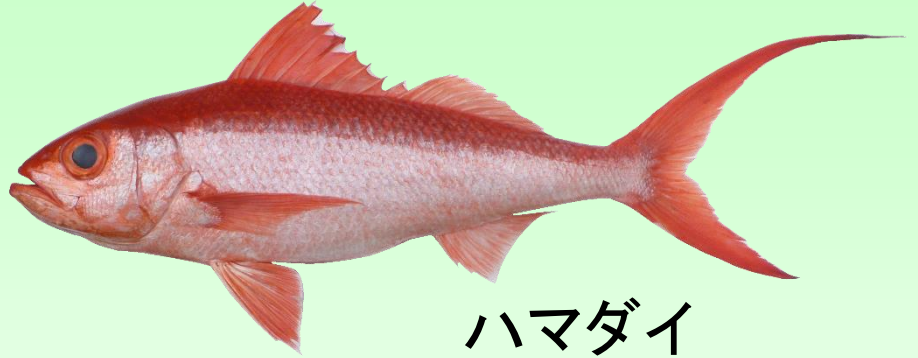




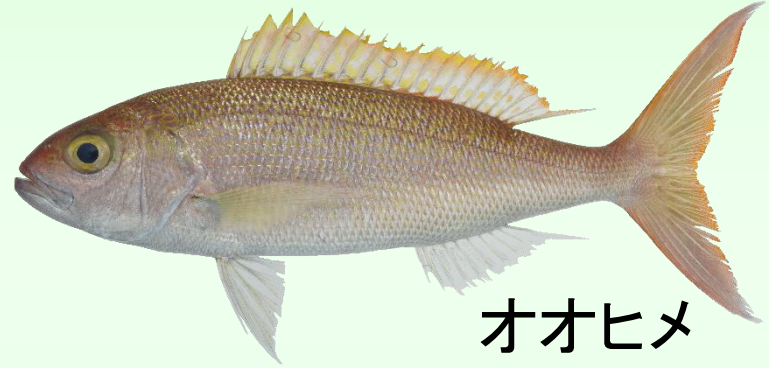
アオダイ



ハマダイ



ヒメダイ

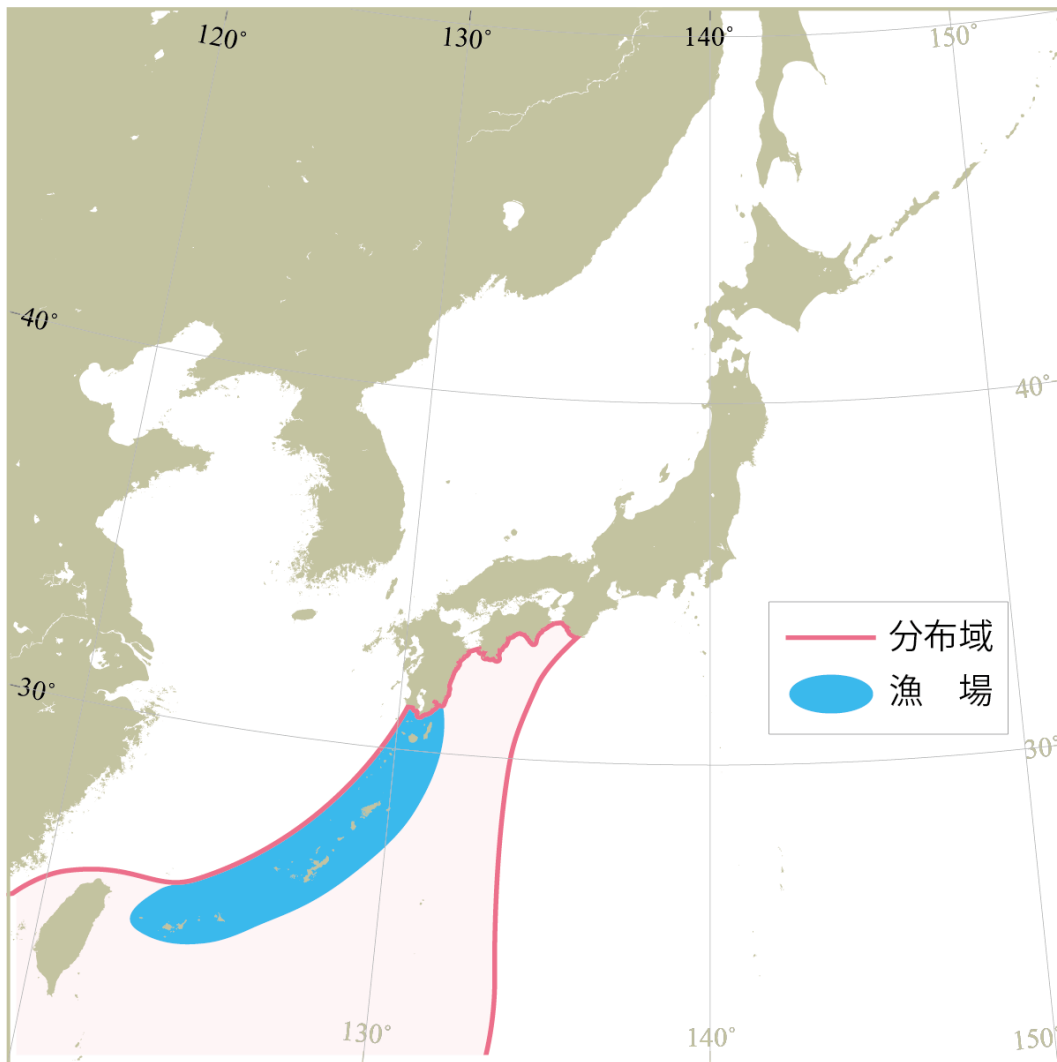


オオヒメ

マチ類

奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島
令和3年度資源評価結果

生物学の特性

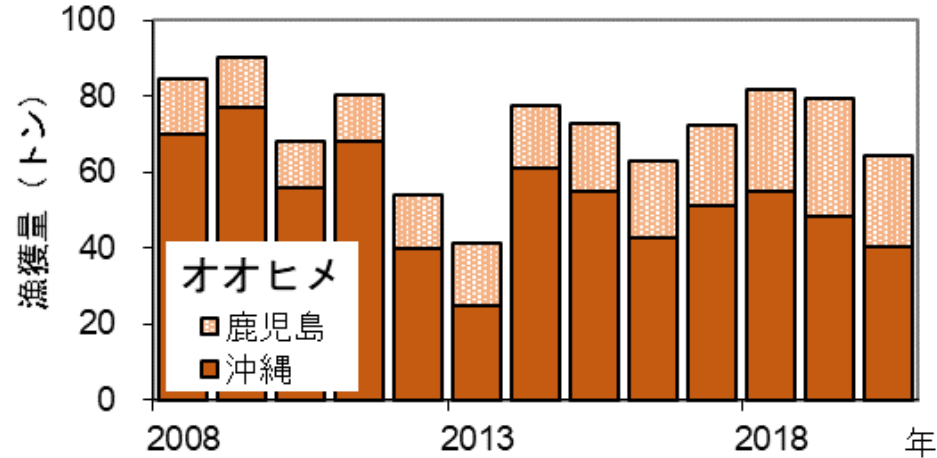
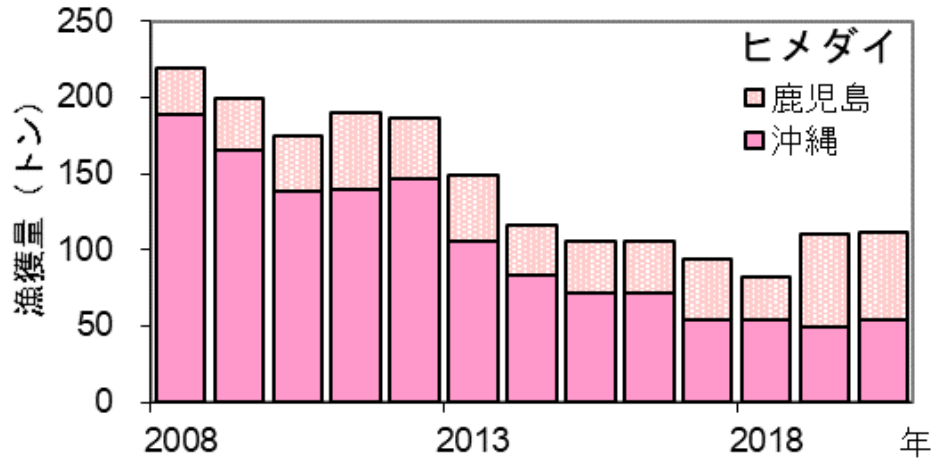
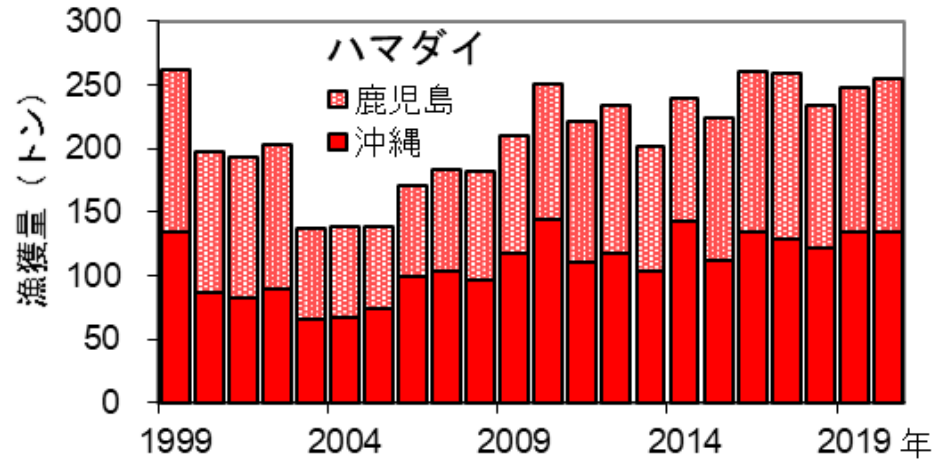
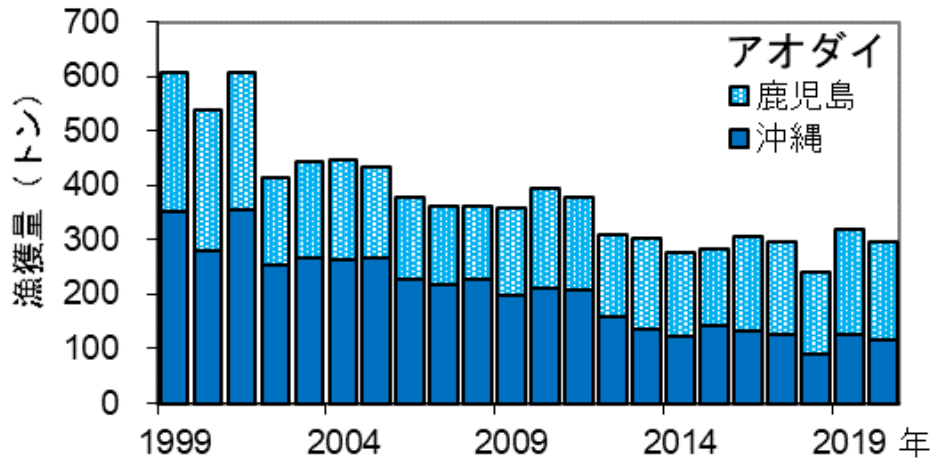


生物学の特性

- 寿命：アオダイは59歳、ハマダイは55歳、ヒメダイは38歳、オオヒメは35歳
- 成熟開始年齢：アオダイ2歳（一部）、7歳（50%）、ハマダイ9歳（一部）、12歳（50%）、ヒメダイ2歳（50%）、オオヒメ3歳（50%）
- 産卵期・産卵場：アオダイ：4～9月、ハマダイ：5～11月、ヒメダイ・オオヒメ：3～10月
- 食性：アオダイは大型動物プランクトン、ハマダイはイカ類、魚類、ヒメダイとオオヒメは魚類、ヒカリボヤ類、浮遊性甲殻類、イカ類
- 捕食者：マハタ、カンパチ、サメ類など

- 漁獲はほぼ周年

漁獲の動向



● 水深100m以深で操業する深海一本釣漁業や底立はえ縄漁業により漁獲される

● 2020年漁獲量

アオダイ: 295トン ハマダイ: 255トン
 ヒメダイ: 112トン オオヒメ: 64トン

資源評価の流れ

漁場別漁獲量

・主要港水揚げ伝票集計



2020年までの資源量指標値

・CPUE

生物情報収集調査

・尾叉長組成

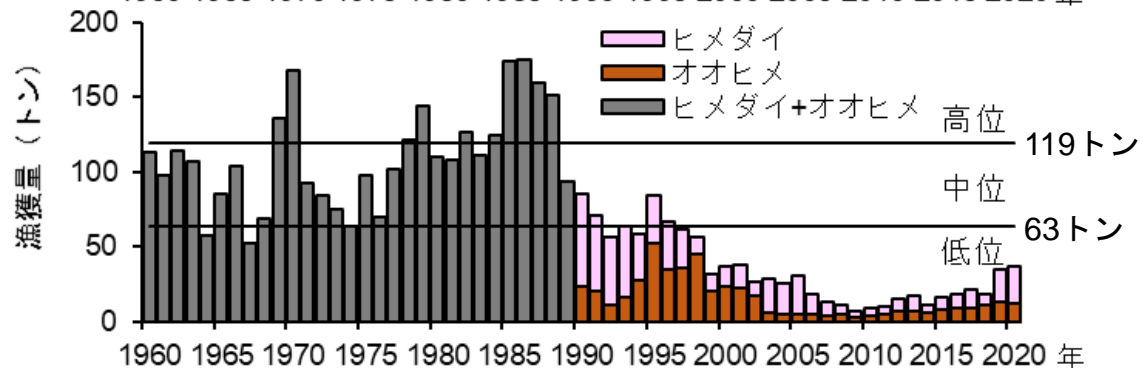
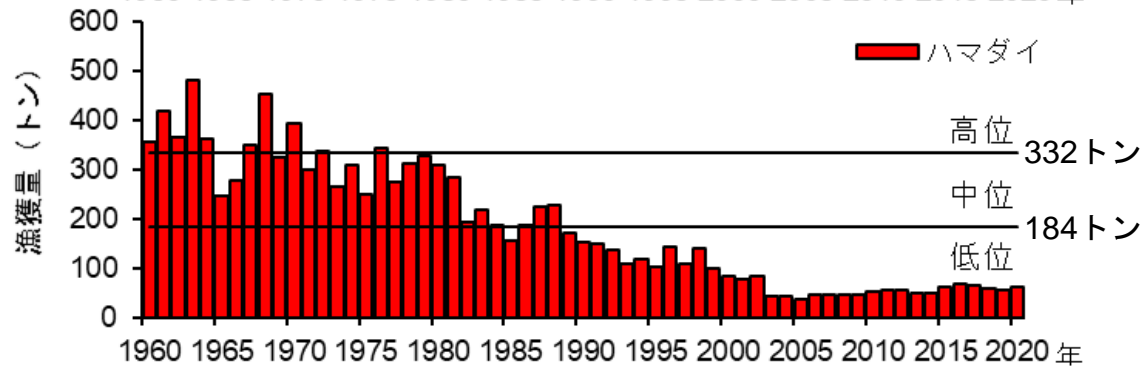
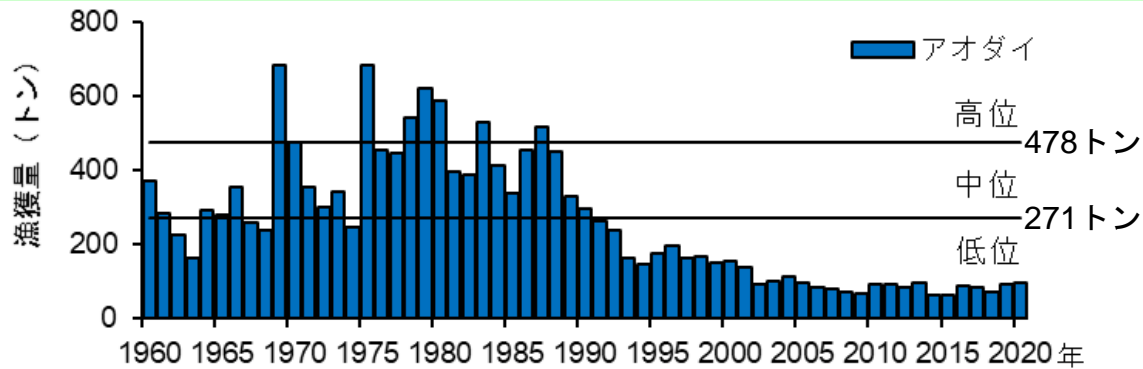


資源水準および動向判断



2022年のABC算定

資源の動向①



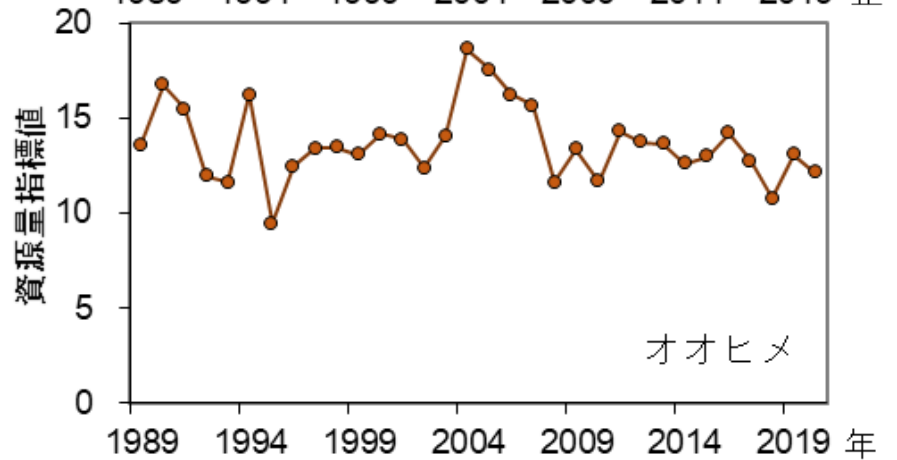
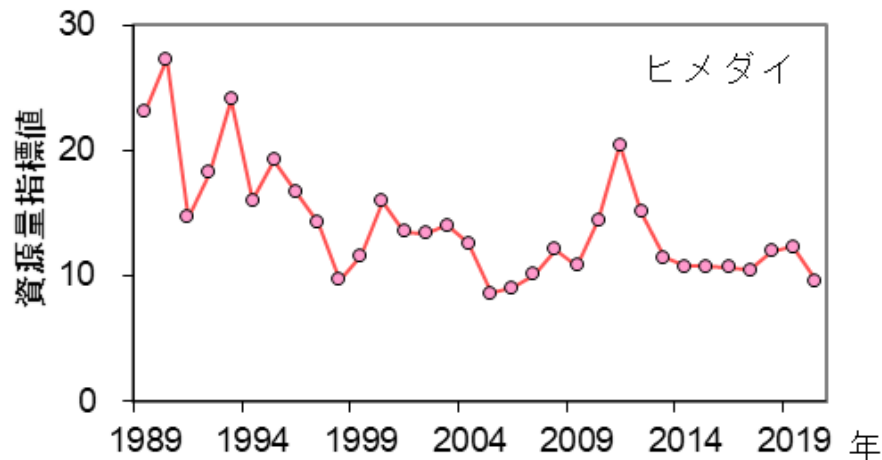
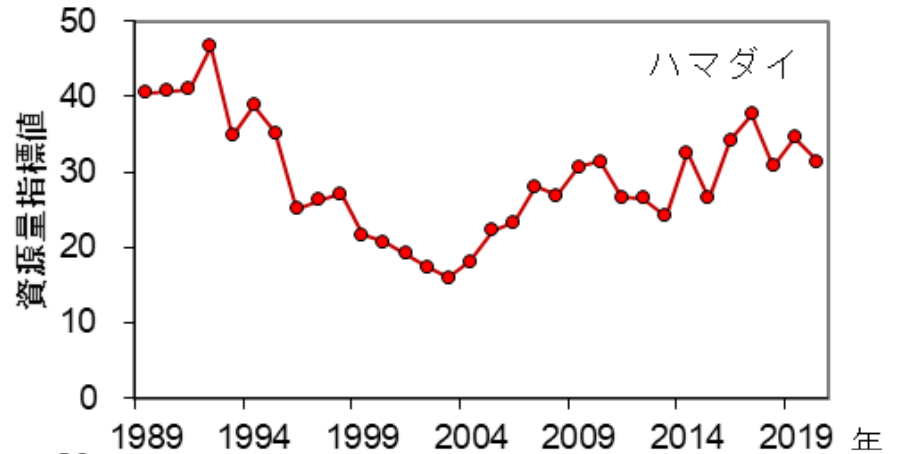
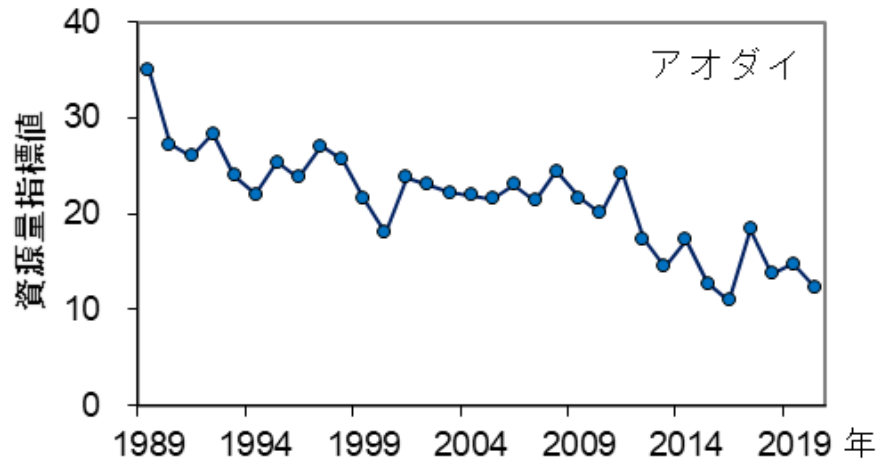
水準区分：

アオダイ、ハマダイおよび
ヒメダイ・オオヒメの混合種群

それぞれの漁獲量の最高値と
最低値を3等分した値を
高位・中位・低位の区切とした

●資源水準： 61年間の漁獲統計がある鹿児島市中央卸売市場の漁獲量から、4魚種とも「低位」

資源の動向②



●資源動向： 過去5年間の資源量指標値（八重山漁協一本釣漁船1隻1航海あたりの漁獲量（CPUE））の推移から、4魚種とも「横ばい」

資源評価のまとめ

- 水準は、いずれの種・種群も低位
- 動向は、いずれの種も横ばい
- 資源量指標値は、アオダイでは2016年まで減少したが、その後は短期的な増減を繰り返している。ハマダイでは2003年を境に減少から増加に転じた。ヒメダイとオオヒメは増減を繰り返しながら概ね横ばいで推移している。
- 漁獲量と資源量指標値をもとに、2022年ABCを算出した

2022年ABC表

	管理基準	Target/ Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値 からの増減%)
アオダイ	0.7・Cave 3-yr・0.95	Target	152	—	—
		Limit	190	—	—
ハマダイ	0.7・Cave 3-yr・1.01	Target	139	—	—
		Limit	174	—	—
ヒメダイ	0.7・Cave 3-yr・0.90	Target	51	—	—
		Limit	63	—	—
オオヒメ	0.7・Cave 3-yr・1.06	Target	45	—	—
		Limit	56	—	—

0.7 : Caveを用い、資源水準が低位である場合の推奨値

Cave3-yr : 2018～2020年の平均漁獲量

0.95、1.01、0.90、1.06 : 資源量指標値の推移から算出